

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号 (電話)0898-43-6662		
自己評価作成日	平成	25年	8月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 9月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で医療面・安全面での安心感がある。

○利用者様一人ひとりの思いを大切に、居心地よく生活できるよう関わっています。又、出来る事が増え、自信に繋がるよう支援しています。

○認知症ケアサービスの質の向上を目指し、研鑽研修に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の母体は医療法人のため、医療面での連携、バックアップ体制は整っており、利用者や家族は安心して利用することができる。運営推進会議には地域からの参加者も多く、活発な意見交換をしている。また、近隣保育園と行事での交流や小学生の下校時の見守り隊へ利用者や職員と一緒に参加するなど、地域に根づく事業所を目指せるよう取り組んでいる。排泄や入浴の支援では、利用者の個性を大切に、役割をこなす頑張りなどを褒めながら利用者が気持ちよく過ごせるよう努めている。外気浴を日課として行い、季節の風やにおいを感じたり、外でお茶を楽しむなど、気分転換できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ヒロセ
(ユニット名)	もくれん
記入者(管理者)	
氏名	羽藤 千春
評価完了日	25年 8月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日、朝礼・昼礼時 唱和をしている。又、変化のある利用者様へのサービス提供についても話し合っている。 グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、家庭的な雰囲気ですらしているよう支援している。</p> <p>(外部評価) 法人の理念と事業所の理念を、職員の名札の裏に明記し、朝礼等で復唱して職員間で共有している。利用者が自宅にいる時と同じように暮らせることを目指し、利用者のできる役割や今までにしてきたことを継続して行うことができるよう取り組んでいる。利用者の前向きな気持ちを汲み、利用者本位のサービスができるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 国分部落の合同会議等にも出席し、日常的に交流している。近隣の国分寺・綱敷天満宮等に参拝、地方祭(みこし来訪等)実施。 小学生下校時には、「見守り隊」として利用者様とともに交流を図っている。 近隣の保育所との交流においては、特に理解を得ている。</p> <p>(外部評価) 法人の納涼祭に地域住民が参加したり、地域の盆踊りに職員と一緒に利用者が参加したりするなど相互の交流をしている。近隣保育所の行事で交流したり、小学生の下校時の見守り隊へ利用者と職員と一緒に参加するなど、地域に根ざした交流ができるよう努めている。また、短大生や高校生の実習受け入れや、隣接の老人保健施設と合同でダンスや歌のボランティアの訪問など、利用者は交流を楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営委員会等でホームの取り組みや行事等の報告し、認知症ケアの勉強会も行い、地域に向け活かしている。 高校生の職場体験、短大生の実習等の受け入れを行い、認知症の人の理解も得ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回、運営推進会議を開催している。行事報告、研修報告、意見苦情報告等行い、意見交換も行っている。 地域の方を含めた防火訓練も行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地区総代、民生委員、婦人会員、市担当者等の参加を得て開催している。会議は防災訓練と一緒に開催する工夫をしており、参加者がそれぞれ災害時の防災の役割を持ち、事業所の様子を知ってもらう良い機会となっている。実施後は会議で防災対策の意見交換がよく行われるようになった。また、認知症や介助の方法などの勉強会も一緒に開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進メンバーである包括支援センターの担当職員に参加していただき、日頃の取組を報告している。また、在宅支援の専門的立場から率直な意見をいただいております。議題等アドバイスも受けながら質の向上に努めている。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。市担当者とは、運営推進会議のテーマを相談したり、制度や熱中症対策のパンフレットをもらったりして情報を得ている。市が主催する研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) グループホーム内だけではなく、法人全体で拘束をしないケアに努めており、Webを活用して情報の共有に努めている。利用者様の身体状況・日常生活を十分観察して拘束をしないケアを実施している。玄関の施錠は20時から6時30分とし、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう配慮している。	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束の勉強会や外部研修に参加して理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。特に入職時には、新人教育で利用者の声かけに注意し、職員全員が意識を持って支援にあたることができるよう努めている。不穏な状態の利用者には、散歩に誘い気分転換を図るなど、1対1の支援をするよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 物理的・精神的虐待・言葉による拘束も虐待の一部と認識し、職員同士注意を払っている。利用者様への言葉遣いにも注意している。また、定期的に勉強会を行い虐待防止の意識向上を図り、少しの変化も見過ごすことがないように、勉強会を行いユニット間の人員交代も実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、財産管理・運用に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。又、居宅介護支援事業所と支援センターとの連携を確保し支援できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャーと十分な話し合いを持ち、助言を受けながら重要事項説明書にて説明し入居の検討をして頂いている。又、利用者様やご家族の権利を尊重し、納得してもらええる介護を提供するよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の面会時や電話する時に、希望や要望を伺ったり、毎月第3金曜日の午後に家族と個別に話し合う時間を設けている。さらに年1回アンケートを実施し、意見や要望を表せる機会を設けている。又、「ご意見箱」を玄関に設置している。 重要事項説明書に苦情窓口を明記している。 (外部評価) 毎月第3金曜日は、利用者や家族と職員が個別に話し合いを持つ機会を設けて、一緒に食事をしたり居室で落ち着いた雰囲気です話をしたりするなど、利用者や家族の意見を聞くようにしている。年に1、2回、1階と2階合同で家族会を開催し、食事会や外食、花見、夏祭りなどの行事を通して交流を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は毎月のミーティングの内容について管理者から報告を受けたり、自身も事業所に出向き職員と話す機会を設けたりしている。職員・管理者・代表者が話しやすい環境を整えており意見を反映させながら質の向上に努めている。 (外部評価) 月1回、隣接する老人保健施設と合同で全体会を開催し、その後事業所での会議を開催し職員間で話し合いをしている。毎月の法人本部の主任会には、法人代表者も出席し、職員から出された要望を伝えることができる。職員は管理者やユニット主任を頼りにしており、職員間の良好な関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会議等に出席し、職員と意見交換する機会をつくっている。又、課業評価にて自己計画をし、反省として各自が向上心を持って職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標や自己評価に目を通しし、個々のケアレベルの把握に努めている。又、資格取得のための研修や対外的研修等への参加も進めて、ケアの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修参加時に意見交換など交流を図り、サービスの質の向上に努めている。 老健のスタッフによる研修報告にも参加させていただいている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族・担当ケアマネジャーの連携でスムーズな入居となるよう努めている。また、入居時、利用者様との時間を十分にとり、「安心」と「信頼」を感じていただけるような関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホーム見学时、入居相談時、契約時等に、生活状況とご家庭の意向を時間をかけて傾聴し、ホームでの今後の対応についても話し合い、信頼関係ができるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、ご家族の思いを大切に、他のサービスの情報提供をし、十分協議し、相談し提供できるよう支援している。また、ケアマネジャーも含め病院が運営母体となって、定期検診や訪問診療等の支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事を一緒にする中で、「人生の先輩」としての意見を傾聴しながら、ともに協力しあい、職員も支えられていることに感謝の言葉も伝えている。穏やかに過せるよう関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月1回の家族会やご家族面会時には、ホーム内での生活状況・希望されていること等その都度お伝えし、ケアプラン策定時には説明と共に情報を共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方については施設に自由に面会に来ていただき、個室にてお茶等を飲みながら、ゆったりと共に過ごしていただいている。	
			(外部評価) 利用者の友人や知人の訪問が多く、職員に率直な意見を言ってくれることもあり見守っている。利用者の行きたい場所には、月2回のドライブを利用して出かけることができ、以前住んでいた場所等を訪ねることができるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出かけるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 発語や聞き取りが不自由な利用者様同士のコミュニケーションがスムーズに図れるようレクリエーション等、参加の声掛けをし、利用者同士の関係がうまくいくよう、職員が間に入りながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設を変えられる方もご家族や本人の相談に対応し、退居後も気軽に来所してもらっている。又、ケアマネジャーとも情報を共有し、相談・電話ができるよう支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご家庭での生活の延長となるようアセスメントを行い環境設定している。ご本人及びご家族ともコミュニケーションをとりながら、ご本人の思いを大切に、意向を伺っている。意思疎通が困難な場合には、表情等により察知し、ご家族様より情報を得ながら検討している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から、どのように暮らしを送りたいかなどの思いや意向を聞き取り、「私の気持ちシート」や「気付きシート」に記録して把握している。お茶入れの当番や土いじりなど、利用者が役割を持って生活が送れるよう支援し、感謝の言葉を添えていくことで、利用者の自信に繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努め、近況報告時にはより良き環境のための相談をし、全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ある日突然に心身状況が変化することがある事を認識して、一人ひとりの現状把握を、職員間の申し送りにて全員が情報を共有するよう努めている。食後の休息等利用者様のペースに合わせ支援している。生活のリズムを守る為、一日の流れはやや決まっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、ご家族様の意向を伺いながらカンファレンスを実施。また、体調変化、要望あれば見直しを行っている。「気付きシート」を活用し全職員、記入し、ケアプランに連動できるよう工夫している。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が、利用者や家族から希望や意向を聞き、職員間で話し合いをして介護計画の原案を作成し、主任が確認して介護計画を作成している。担当職員は毎月モニタリングし、3か月ごとに主任が評価をしている。日々の記録は、計画に沿った記述ができるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの変化や状況を個別記録に具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。 状態変化等あれば随時見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。 看護職員・歯科衛生士・PT・OT・ST・健康運動療法士・管理栄養士等のアドバイスを受けられる体制であり、よりいっそうの自立支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 隣接の介護老人保健施設との交流により、柔軟な援助を行っている。 又、近隣の国分寺に参拝、保育所の園児との交流で楽しく過ごして頂き交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関も整っている。訪問診療を受けられる利用 者様もおられる。また、緊急時の対応が確保されて いることの安心感がある。希望されるかかりつけ医と も連携を図り、適切な医療が受けられるように支援し ている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て継 続して受診することができる。母体病院の協力医をか かりつけ医に変更する利用者も多い。協力医や歯科医 の往診を受けることができるよう支援しており、健康 管理をしている。心療内科や他の専門医は、家族の協 力を得て受診することができる。事業所と母体病院は 内線で連絡が取れるような体制が整っており、急変時 等にも速やかに対応することができ、利用者は安心し て利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を図り、日常の健康管理 をしている。又、広瀬クリニック・在宅支援診療所と の連携も図れている。 24時間医療連携も可能な支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医とも連携し、早期退院に向けて話 し合い、又退院後の療養計画・ホーム入居復帰につい てご家族とも相談し協力している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。又、体調変 化があれば、その都度ご本人・ご家族と十分話し合い 説明しながら方針を共有している。 広瀬クリニック・在宅支援診療所・訪問看護ステー ションとの連携を図り、看取りの経験もある。	
			(外部評価) 契約時に、重度化や終末期の対応として訪問診療や訪 問看護が受けられることや、母体法人の老人保健施設 で対応可能なことなどを利用者や家族に説明して確認 している。また、年2回、家族の意向を聞き把握する ようにしている。終末期は家族も事業所に泊まること ができ、協力しながら支援するよう努めている。職員 研修を老人保健施設と合同で実施し、終末期の職員の 不安解消や利用者本位のケアが行えるよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行う。 勉強会で定期的に意識付けを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」としてマニュアルにて全職員の意識付けを行っている。年2回の防災訓練では昼夜間想定し実施している。また、地域の総代さん等の参加、協力も得ている。災害時の医療連携（関連病院）し、災害時の食品、水等3日分の備蓄している。	
			(外部評価) 運営推進会議開催時に避難訓練を参加者と一緒に行っており、地域住民に理解を得て、避難した後の利用者の見守りをお願いしている。訓練実施後には、参加者や家族が意見交換を行い、防災意識を高めている。避難訓練には、新人職員は必ず参加して、避難方法など対応を身に付けられるよう配慮している。地震対策や火災対策のマニュアルを整備し、毎月、消火器や避難経路の確認をしている。	防災訓練を実施しているが、職員には利用者が無事に避難できるか不安や緊張がある。その解消のために職員間で話し合い、繰り返し訓練することで緊急時に自分たちでどう動けるのか対策を考えていくことを期待したい。また、さらなる地域の協力を得られるよう関係づくりに努められることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご家族の意向に沿った呼び方など、利用者様一人ひとりに応じた配慮をしている。特に入浴中や排泄などは個々の希望に配慮している。	
			(外部評価) 職員は声の大きさやトーン、声かけの仕方、内容などを特に気を付けて、利用者に接することを心がけている。職員が利用者との馴れ合いが出ないように気を付け、入浴や着替えの場面では、利用者のペースで行うことを心がけ、急かしたり恥ずかしい思いをさせないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者様の思いを理解するよう心掛けて関わっている。表現や自己決定が上手くできない利用者様にも、表現や仕種などを見て思いが伝えられるよう援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添って散歩等の支援を行っている。また、本人様が発揮できる家事等については意思確認をしながら行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服選びはご家族様と共に相談し、本人様の好みにも合わせ、整えられるようにしている。また、月2回理美容の便宜を図っている。利用者様一人ひとりの要望に応え、満足されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの得意とする調理・盛り付け・片付け等を職員と一緒にしている。毎月1回の食事会では利用者様の希望に応え、献立し、一緒に買い物・調理等を行い、同じテーブルを囲み、談笑しながら食事をしている。 (外部評価) 管理栄養士の立てた献立表の食材が、隣接する老人保健施設から届き、事業所で職員と利用者が一緒に調理している。利用者は、食材の下ごしらえや洗い物などできることを職員と一緒に手伝っている。利用者の身体状況に合わせて、食の形状を変えて対応している。また、家族を交えながら毎月利用者全員で外出にかけ、ファミリーレストランや回転ずし、ホテルランチなど、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士による献立表をもとに、一人ひとりの状態にあった調理をし、バランスの良い食事を提供している。また、水分量・食事は毎食確認し、バイタル表にて把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け・見守り・介助にて、口腔ケアを実施している。又、歯科衛生士による個別口腔ケア指導も行われている。義歯は夕食後、口腔ケア後、預かり毎日消毒している。口腔ケアセットは毎週土曜日、消毒し清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、自然な排泄ができるよう、自身の持っている力を引き出し、自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて排泄を支援しており、紙パンツやパットを使用している利用者はいるが、おむつ使用者はおらず、できるだけトイレ誘導をして排泄支援をしている。夜間も利用者からの訴えや職員の声かけによって、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者の頑張りもあり、利用者自身が気持ちの良い排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分補給、適度な運動と活動的な日常生活を送り、便秘を予防している。便秘気味のご利用者様には体調に合わせて内服薬でコントロール・予防し、不穩に繋がらないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々のペースに合わせた時間での入浴を行い、入浴を満喫して頂くと共に、職員とコミュニケーションを図りながら楽しく入浴出来るよう支援をしている。又、老健大浴場にも行かれ、気分転換を図られる利用者様もいます。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて、1日おきに午後から入浴することができる。浴室には、個浴槽とシャワーが2か所あり、現在は利用者全員に浴槽での入浴支援をしている。入浴中に職員に話す利用者の本音や甘える部分を聞き取り、要望に応えるよう心がけている。また、利用者一人ひとりの好みのシャンプー類を用意し、入浴が楽しみとなるよう支援している。隣接する老人保健施設の大浴場での入浴の希望者もおり、同施設に馴染みの方の入所もあり、楽しみにしている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の流れの中、利用者様の体調や気分、状況に応じて休息できるよう支援している。居室にて自由に心地よく過ごしていただける時間も大切に見守っています。安眠、安楽できる環境も提供していきます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示や内服の内容、処方された薬の説明書を全職員が目を通し把握するようにしている。個別の内服薬表を作成し、きちんと服用できるよう管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりに合った出来る事、自信に繋がることを見つけ出し、役割分担をしている。役立つことの喜びや楽しみになるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望に添い、体調、天気の良い日は外出をし、地域の人々と談話したり、交流しながら季節の花を楽しまれたりしている。又、ご家族の協力のもと外出・外泊されたりする利用者様もおられる。日頃より外出の希望はできるだけ対応し、買い物等の日も設けている。	
			(外部評価) 毎日、利用者全員が玄関先で外気浴に取り組んでおり、歌を歌ったりコーヒーやお茶を飲み会話を楽しみながら、季節を感じる事ができるよう努めている。事業所周囲の散歩コースにある保育園に訪問したり、小学生の下校時の見守り隊へ利用者と職員と一緒に参加するなど、子どもたちとの交流の機会となっている。月2回、馴染みのスーパーに買い物に出かけるなど、外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは事務所で預かっている。希望や能力に応じて、所持し、買い物を楽しんでいる。特に週1回パンの購入においては好きなパンを選び、自ら支払いもされ満足されている。また、ご家族面会時には、小遣い帳の確認をさせていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族より郵便物が届くとお礼の電話をするよう声掛けをし、電話にてお話をされる。人と人との繋がりを大切にしております。お孫さんの成長を楽しみながら、定期的に手紙を書かれている利用者様もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳コーナーや窓辺に椅子を並べ、中庭の季節の草花を觀賞されたり、生花を居室に飾られ楽しまれている。音楽を流したり、好きなDVDを見たり、ゆったりとした時間も大切にしている。	
			(外部評価) 居間は外からの光が明るく差し込み、天井が高く開放感がある。廊下や居間の壁には手すりが付けられており、安全に移動することだけでなく、手すりを持ってリハビリなど体を動かすためにも使用している。一段高い畳スペースには腰を掛けて休むことができ、掘り炬燵もあり、利用者は自由に過ごすことができる。以前入居していた利用者の家族が、季節ごとに絵画を飾りに訪問してくれ、関係が続いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間の一角にテレビ・ソファを設置し、少人数で自由に過せる場所を確保している。2階談話室は1・2階共用空間として工夫し使用して頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた鏡台等持参され、夜にはしっかりと肌のお手入れをされている利用者様もおられる。お花等部屋に生けられ、又ご家族との写真を飾られ、ゆったりとした空間で居心地よく過ごされている。	
			(外部評価) 居室はベッド、整理だんす、クローゼットが備え付けられている。居室には自宅から仏壇やラジオなど大切なものや使い慣れた物を持ち込まれている利用者もいる。衣替えは、季節ごとに家族の協力を得て行っており、居室内は整理整頓され、清潔さが保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 目線に入る位置に目印をし、また好みの造花等、居室入口に飾り、自分の部屋であると認識できるよう工夫し、「わかること」を活かせるよう支援している。環境整備は整っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201179		
法人名	医療法人 陽成会		
事業所名	グループホーム ヒロセ		
所在地	愛媛県今治市国分7丁目4番36号 (電話)0898-43-6662		
自己評価作成日	平成	25年	8月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 9月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○利用者様、ご家族にとって母体の陽成会の広瀬病院・広瀬クリニックとの連携を図り、訪問診療・訪問看護のバックアップが24時間とれる体制で医療面・安全面での安心感がある。</p> <p>○利用者様一人ひとりの思いを大切に、居心地よく生活できるよう関わっています。又、出来る事が増え、自信に繋がるよう支援しています。</p> <p>○認知症ケアサービスの質の向上を目指し、研鑽研修に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の母体は医療法人のため、医療面での連携、バックアップ体制は整っており、利用者や家族は安心して利用することができる。運営推進会議には地域からの参加者も多く、活発な意見交換をしている。また、近隣保育園と行事での交流や小学生の下校時の見守り隊へ利用者と職員と一緒に参加するなど、地域に根付く事業所を目指せるよう取り組んでいる。排泄や入浴の支援では、利用者の個性を大切にし、役割をこなす頑張りなどを褒めながら利用者が気持ちよく過ごせるよう努めている。外気浴を日課として行い、季節の風やにおいを感じたり、外でお茶を楽しむなど、気分転換できるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ヒロセ

(ユニット名) つつじ

記入者(管理者)
氏名 別府 真由美

評価完了日 25年 8月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念『相手を思いやる「和」の心と「誠意」をもって接する。』を基本に、毎日朝礼時と昼礼時に唱和をしている。 グループホームの理念「その人らしい生きがいのある心地よい今」を掲げ、穏やかで家庭的な雰囲気で暮らしていけるよう支援している。穏やかで落ち着ける場所をめざし個人個人に合わせたケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念と事業所の理念を、職員の名札の裏に明記し、朝礼等で復唱して職員間で共有している。利用者が自宅にいる時と同じように暮らせることを目指し、利用者のできる役割や今までにしてきたことを継続して行うことができるよう取り組んでいる。利用者の前向きな気持ちを汲み、利用者本位のサービスができるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 部落行事等自発的に参加し交流を深め、特に小学生の下校時の「見守り隊」を実施している。</p> <p>(外部評価) 法人の納涼祭に地域住民が参加したり、地域の盆踊りに職員と一緒に利用者が参加したりするなど相互の交流をしている。近隣保育所の行事で交流したり、小学生の下校時の見守り隊へ利用者と職員と一緒に参加するなど、地域に根ざした交流ができるよう努めている。また、短大生や高校生の実習受け入れや、隣接の老人保健施設と合同でダンスや歌のボランティアの訪問など、利用者は交流を楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小学生との交流を通じ認知症の理解をして頂けるように努力し、高校生の現場体験や短大生の実習等の受け入れも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的で開催し、利用者様等からの評 価・意見・苦情を話し合い、サービス向上に活かして いる。また地域の方々や利用者を交えた防火訓練等も 実施している。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地区総代、民生委員、 婦人会員、市担当者等の参加を得て開催している。会 議は防災訓練と一緒に開催する工夫をしており、参加 者がそれぞれ災害時の防災の役割を持ち、事業所の様 子を知ってもらう良い機会となっている。実施後は会 議で防災対策の意見交換がよく行われるようになった。 また、認知症や介助の方法などの勉強会も一緒に 開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会においてケアサービスの取 組みを報告している。また日頃からの連絡を通し、 協力関係を築き取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報 告や意見交換をしている。市担当者とは、運営推進會 議のテーマを相談したり、制度や熱中症対策のパンフ レットをもらったりして情報を得ている。市が主催す る研修会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会等に参加し、職員全員が指定基準を 正しく理解できるよう努めており、拘束しないケアを 実施している。 利用者が自由に安全に暮らせるように支援している。 また玄関の施錠は20時より6時までとしている。	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束の勉強会や外部研修に参加して理 解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。特 に入職時には、新人教育で利用者の声かけに注意し、 職員全員が意識を持って支援にあたることができるよ う努めている。不穏な状態の利用者には、散歩に誘い 気分転換を図るなど、1対1の支援をするよう心がけ ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止方法等の勉強会を行い、物理的・精神的虐待についても理解を深め、声掛け等注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は成年後見制度の活用はないが、必要性に応じて説明できる準備をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な話し合いを持ち、家族・利用者様の不安や疑問点を検討し、ご理解・ご納得いただけるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や第三金曜日の家族会で個々に意見・要望を受けている。また、意見箱やアンケートの実施をし、運営に反映している。	
			(外部評価) 毎月第3金曜日は、利用者や家族と職員が個別に話し合いを持つ機会を設けて、一緒に食事をしたり居室で落ち着いた雰囲気です話をしたりするなど、利用者や家族の意見を聞くようにしている。年に1、2回、1階と2階合同で家族会を開催し、食事会や外食、花見、夏祭りなどの行事を通して交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者は、毎月ミーティングの内容を管理者から受け、職員・管理者・代表者が、お互い意見を発言しやすい環境の中でケアの向上に努めている。 (外部評価) 月1回、隣接する老人保健施設と合同で全体会を開催し、その後事業所での会議を開催し職員間で話し合いをしている。毎月の法人本部の主任会には、法人代表者も出席し、職員から出された要望を伝えることができる。職員は管理者やユニット主任を頼りにしており、職員間の良好な関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 全体会議等に参加し、意見交換を行って、やりがいのある職場としての環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベルの把握に努め、研修を受ける機会や資格取得をすすめ、ケアの質の向上を目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や職員が交流し、意見交換などを行い、質の向上に努めている。 また、研修時等、交流する機会を作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様が安心して心地よく生活できるよう家族・担当ケアマネジャーと協力しながら関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) グループホームが生活の場であることを御家族様に理解していただき利用者様を尊重したケアに努めている。 また、面会時等、いつでも不安・要望等、相談して頂けるよう声掛けを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様が必要としている支援を見極めたサービス提供ができるよう支援している。 補助具や介護用品の提案・説明も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様を自分の家族と思い、家族的な関係を築いている。また、調理等得意分野において職員共に活動し、活躍の場を設けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの生活状況を面会時には伝え、寄り添うケアを築いている。 定期的に広報を作り、生き生きとした日常生活を感じてもらえるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。 定期的にドライブレクを行い、馴染みの場所を散策する機会を設けている。 (外部評価) 利用者の友人や知人の訪問が多く、職員に率直な意見を言ってくれることもあり見守っている。利用者の行きたい場所には、月2回のドライブを利用して出かけることができ、以前住んでいた場所等を訪ねることができるよう支援している。お墓参りに家族の協力を得て出かけるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の気持ちを尊重し、席替えを行ったり職員の声掛けや見守りにより孤立することのないように支援している。それぞれの個性を尊重し、支え合えるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された方も気軽に来所され本人や家族のその後の経過を相談や支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や本人の意向を尊重し、精神が安定した暮らしができるように考慮している。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から、どのように暮らしを送りたいかなどの思いや意向を聞き取り、「私の気持ちシート」や「気付きシート」に記録して把握している。お茶入れの当番や土いじりなど、利用者が役割を持って生活が送れるよう支援し、感謝の言葉を添えていくことで、利用者の自信に繋がるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に、今までに暮らしてきた生活環境などをご家族に聞き、把握し、サービス利用に役立てるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様のペースに合わせた過ごし方や心の動き方をとらえて一日のリズムを作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様がより良く快適に過ごせるよう気付いたことは気付きシートに記入・活用し、全職員がケアプランに連動できるよう工夫し、本人・家族と話し合いをもって介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が、利用者や家族から希望や意向を聞き、職員間で話し合いをして介護計画の原案を作成し、主任が確認して介護計画を作成している。担当職員は毎月モニタリングし、3か月ごとに主任が評価をしている。日々の記録は、計画に沿った記述ができるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様の日々の気づきや変化を、個別記録と気付きシートに記入し、全職員が情報を共有し、実践や見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の様々な希望や思いを受け止め、できる限り対応できるよう話し合い支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者様が豊かな暮らしができるよう地域自治会や近隣等の資源を把握し、積極的に取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望される医療には連絡をとり、受診でき るように支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て継 続して受診することができる。母体病院の協力医をか かりつけ医に変更する利用者も多い。協力医や歯科医 の往診を受けることができるよう支援しており、健康 管理をしている。心療内科や他の専門医は、家族の協 力を得て受診することができる。事業所と母体病院は 内線で連絡が取れるような体制が整っており、急変時 等にも速やかに対応することができ、利用者は安心し て利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 年1回健康診断を実施している。 また、利用者様に変化があれば、その都度報告し、受 診ができるようにしている。 24時間在宅支援や訪問看護とも連携している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様の入院中も安心して治療ができるよう病院関 係者と情報交換や相談に応じ関わりをもっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関して入居時、年2回程度意向を伺い、広瀬 クリニック、在宅支援、訪問看護ステーションと連携 を図っている。 看取りも1回ではあるが経験している。	
			(外部評価) 契約時に、重度化や終末期の対応として訪問診療や訪 問看護が受けられることや、母体法人の老人保健施設 で対応可能なことなどを利用者や家族に説明して確認 している。また、年2回、家族の意向を聞き把握する ようにしている。終末期は家族も事業所に泊まること ができ、協力しながら支援するよう努めている。職員 研修を老人保健施設と合同で実施し、終末期の職員の 不安解消や利用者本位のケアが行えるよう努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応についての勉強会が定期的 に開催されている。 全職員が参加し、知識習得し、実践力を身に付けるよ う努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行い、毎月10日を「防災の日」 としてマニュアルを再確認し、利用者が避難できるよ う全職員が意識付けしている。また地域の国分地域の 総代さんの協力も得て、防災訓練に参加していただ いている。災害時の医療連携(関連病院)し、災害時の 食品、水等3日分の備蓄している。 (外部評価) 運営推進会議開催時に避難訓練を参加者と一緒 に実施しており、地域住民に理解を得て、避難した後の利用 者の見守りをお願いしている。訓練実施後には、参加 者や家族が意見交換を行い、防災意識を高めている。 避難訓練には、新人職員は必ず参加して、避難方法 など対応を身に付けられるよう配慮している。地震 対策や火災対策のマニュアルを整備し、毎月、消火器 や避難経路の確認をしている。	防災訓練を実施しているが、職員には利用者が無事に 避難できるか不安や緊張がある。その解消のために職 員間で話し合い、繰り返し訓練することで緊急時に自 分たちでどう動けるのか対策を考えていくことを期待 したい。また、さらなる地域の協力を得られるよう関 係づくりに努められることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価) 利用者様のプライバシーを守り、人格を尊重したケア を心掛けている。 人生の先輩であることを認識し、思いやりをもって接 している。 (外部評価) 職員は声の大きさやトーン、声かけの仕方、内容など を特に気を付けて、利用者に接することを心がけてい る。職員が利用者との馴れ合いが出ないようにも気を 付け、入浴や着替えの場面では、利用者のペースで行 うことを心がけ、急かしたり恥ずかしい思いをさせな いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定ができない利用者様に対しては、日常生活 の中で表現や仕草・言動を読み取り、職員一同心がけ、 自己決定の支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを把握し、共有スペースで過ごす場合には、新聞・雑誌やレクの提供をし、居室で過ごされたい場合には、見守り、声掛けをし、空調などにも気を付け、自由に過せるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の好みに合った服装を身に付けたり、外出時にはいつもとは違った服を着用し、おしゃれを楽しまれている。また、月2回、散髪の日をもうけ、身だしなみを整えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 月1回の食事会と外食の機会をもうけ、利用者様の好みのもを聞き入れながら、食事会・外食を行っている。また、職員と一緒に調理をしたり、できることを楽しみながら行っていただけるよう支援している。	
			(外部評価) 管理栄養士の立てた献立表の食材が、隣接する老人保健施設から届き、事業所で職員と利用者が一緒に調理している。利用者は、食材の下ごしらえや洗い物などできることを職員と一緒に手伝っている。利用者の身体状況に合わせて、食の形状を変えて対応している。また、家族を交えながら毎月利用者全員で外食に出かけ、ファミリーレストランや回転ずし、ホテルランチなど、利用者は楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考え、栄養士とも相談し、一日の食事摂取量や水分等を摂取するよう、十分注意を払い、体調管理を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が声掛け・見守り・介助にて、個々の状態に応じた口腔ケアを行い、口腔内の状態を把握し、衛生に努め、清潔にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 状況に応じ、紙パンツや失禁パンツ等を提供し、利用者様のニーズにそって排泄の自立ができるよう支援・工夫している。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて排泄を支援しており、紙パンツやパットを使用している利用者はいるが、おむつ使用者はおらず、できるだけトイレ誘導をして排泄支援をしている。夜間も利用者からの訴えや職員の声かけによって、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者の頑張りもあり、利用者自身が気持ちの良い排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、排便のチェックをし、食事・水分・適度な運動を行う。状態に応じては、便秘薬等を服用し、排便コントロールをし、便秘による不安・不穩の軽減に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの希望に応じ、入浴を楽しめるよう、支援している。また、時には隣接の老健にある大浴場での入浴をし、気分転換していただいている。	
			(外部評価) 利用者の状態に応じて、1日おきに午後から入浴することができる。浴室には、個浴槽とシャワーが2か所あり、現在は利用者全員に浴槽での入浴支援をしている。入浴中に職員に話す利用者の本音や甘える部分を聞き取り、要望に応えるよう心がけている。また、利用者一人ひとりの好みのシャンプー類を用意し、入浴が楽しみとなるよう支援している。隣接する老人保健施設の大浴場での入浴の希望者もおり、同施設に馴染みの方の入所もあり、楽しみにしている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ベッドのリクライニング、クッション、L字柵の設置・室内温度調整・就寝時間等、一人一人の好みや体調に考慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者様の使用している薬の内容や用法・用量について理解し、状態の変化に気を付け、いつもと違っていれば医師と相談し、適切に対処している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様の個々に応じた役割分担をもち、できる喜びにし、張り合いのある日々を送っている。また、外気浴・散歩・頭の体操など、積極的に取り入れ気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃より外出の希望は出来るだけ対応できるように、買い物などの日を設けている。自ら希望を言われない方は日常の会話から行きたい場所を聞き、行けるように援助している。	
			(外部評価) 毎日、利用者全員が玄関先で外気浴に取り組んでおり、歌を歌ったりコーヒーやお茶を飲み会話を楽しみながら、季節を感じることができるよう努めている。事業所周围の散歩コースにある保育園に訪問したり、小学生の下校時の見守り隊へ利用者と職員と一緒に参加するなど、子どもたちとの交流の機会となっている。月2回、馴染みのスーパーに買い物に出かけるなど、外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様の必要な物品を購入する買い物の日を設け、職員同行で買い物に出かけ、利用者の好みのお菓子や日用品を購入できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話をかけたたり、手紙を書いたりなどできるよう、人と人のつながりを大切にできるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者様にとって居心地の良い空間であるよう畳コーナーを設け、窓からは季節を味わえる紅葉や草花が見られ、日光浴を楽しまれている。玄関ロビーなどのゆったりとした空間で居心地よく過ごされている。</p> <p>(外部評価) 居間は外からの光が明るく差し込み、天井が高く開放感がある。廊下や居間の壁には手すりが付けられており、安全に移動することだけでなく、手すりを持ってリハビリなど体を動かすためにも使用している。一段高い畳スペースには腰を掛けて休むことができ、掘り炬燵もあり、利用者は自由に過ごすことができる。以前入居していた利用者の家族が、季節ごとに絵画を飾りに訪問してくれ、関係が続いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 自席には好みのクッションや枕置きを設置する等して、安心できる場所となっている。 また、自由に他席に移動され、他の利用者様と談笑できるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には馴染みの物や、写真他、仏壇など置かれている方もおられ、自分の家に居る時と同じように落ち着いて過ごせるよう、空間づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、整理だんす、クローゼットが備え付けられている。居室には自宅から仏壇やラジオなど大切なものや使い慣れた物を持ち込まれている利用者もいる。衣替えは、季節ごとに家族の協力を得て行っており、居室内は整理整頓され、清潔さが保たれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 造花やネームプレートを利用し、自分の居室を把握できるように工夫している。また、居室での作業が可能なお方には、掃除や衣類の片付けなど、できる事は見守りの中していただけるよう支援している。</p>	